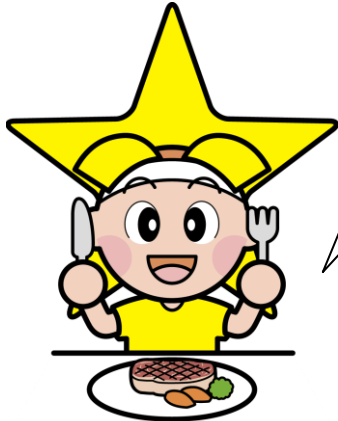


食べよう！おかやまのお肉

～「岡山県産食肉地産地消推進会議」の取り組みについて～

岡山県畜産課



岡山県マスコット ももち

やっぱり県産は安心して
きるし、フードマイレージも
節約できてエコだね！
(お肉版ももち、できま
した。)

1 考えてみましょう！

Q1：お肉の消費は減っているの？

A1：正解は、なんとも言えない、です。

というのも、総務省調べ平成21年度の全国1人当たり家計消費「量」の前年比、牛肉107.2%(約2.3kg/人)、豚肉101.7%(約6.0kg)、鶏肉108.9%(約4.5kg)、同じく「額」は順番に97.7%、96.3%、97.6%なのです。正解は、統計上は「量」は増えているが、「額」は減っている、です。

・・・単純に分析すると、「牛」→「豚」→「鶏」、「国産」→「輸入」、「よりいいもの」→「ふつうのもの」と、消費者はより安価なものの購入に流れているってことでしょうか。

Q2：県外産や輸入の安い肉を食べてもいいじゃない？

A2：正解は、もちろんいいです、構いません。消費者の自由です。

・・・しかし、ほんとにそれだけでよいのでしょうか？

2 地元のお肉を食べないと地域が廃れる！

○お肉の地産地消をしない。(履歴のわからないも

のや、輸入品など安いものばかりに消費が流れる。)

→

○県産のお肉が売れない。(安心安全でおいしいのに。県営食肉市場で処理されたお肉はほんとに最高。)

○県内の畜産農家の経営が危うくなる！(岡山県は西日本でも有数の畜産県ですよ。)

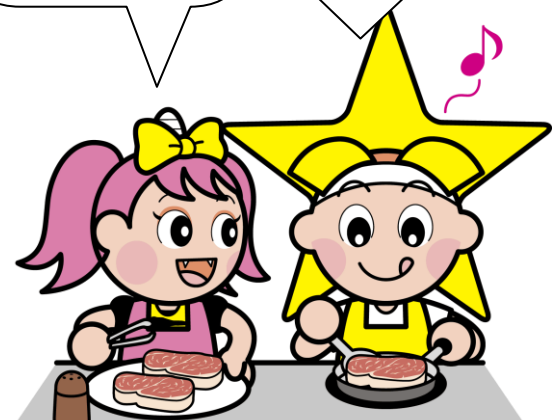
○地域の田畑、山林が荒れていく。(特に中山間地域。牛は草を利用し、家畜のふん尿は豊かな農産物を育てます。)

○地域の担い手の核である畜産農家の衰退は、地域の衰退を意味します。・・・

◎これは「風が吹けば桶屋が儲かる」の無理矢理の理論ではありません。消費者(県民)には豊かな食生活をおくる権利がありますが、その中心は地産地消でありたいものです。

畜産課のホームページで活動状況がわかるらしいわよ。

僕たちの会話がコンテストになるみたいだね。ホームページ見てみようっと。



岡山県マスコット「うらっち」と「ももち」

3 岡山県産食肉地産地消推進会議

数年前から、地産地消の県民運動は実施されていますが、この状況下、お肉へ特化した活動が急務だ

岡山畜産便り 2010.08

ということで、県農林水産部長を会長に、副会長は全農岡山県本部長、荷受会社社長、消費生活問題研究協議会長と、生産から流通・消費までの関係者22団体が一体となり、岡山県産食肉地産地消推進会議がこのたびの平成22年5月に設立されました。



H22. 5. 21、設立総会の様子、消費者代表

4 草の根運動と目立て！運動

現在は、県内の主なスーパーさんなどに対し、ローラー作戦を展開しています。直売所や、大学などの学食、福祉施設、宿泊施設、どこでも行きます。

また「ももっち」「うらっち」の力を借りて啓発活動もします。いかに県産に注目してもらうかです。

お肉の地産地消を推進するため、皆さんのアイデアや行動をお待ちしています。